

広報  
九州経済

10

No.672 '91

月号

知新 | 温故



今月の特集…P2~P5

農業は生き残れるか

# 今、農業が静かに老いを迎えようとしている。

遠賀川が運んだ肥沃な大地に、弥生の古き時代より滔々<sup>とうとう</sup>と育まれた稲作文化。この稲作も時代の流れとともに移り変わり、今、存亡の危機を迎えようとしている。

## 都市近郊型農業に変化してきた

百万都市北九州市のベッドタウンとして著しい発展を遂げた水巻町。その発展の影に延々と営まれてきた農業が、今静かに老いを迎えようとしています。

水巻町の農業は、一級河川遠賀川に沿って南北に長く延びた地形に、豊富な水を利用した米作りが昔から栄えてきました。

現在も、水田を中心に麦や野菜などの作物が作られています。町の南部は主に米作りが営まれ、北

部は減反田などを利用してキャベツや玉ねぎなどの野菜作りが盛んです。二十年前に比べると野菜類が著しく伸び、都市近郊型の農業に変化してきました。

専業兼業別にみると兼業農家が全体の93パーセントを占め、主計が他の収入に依存していることがうかがえます。(グラフ1)

減反田を利用して野菜づくりを行う北部地区

【グラフ1】 ●専業別農家数 資料：農業センサス





◎都市化の波を受け、宅地化が進む水田地帯。

◎軟弱地盤のため宅地のほうへ傾いた水田。もう稲は作れない。



## 稲作面積は 半分以上に激減

グラフ2をこらんどください。  
農家数や耕地面積は、生産者米価の低迷や米離れから来る減反政策などを反映してか、毎年減り続けています。

農家数をみると昭和四十五年には二百七十七戸あったものが、平成二年には百八十三戸と約四割も減少しています。

また、耕地面積も農家数に比例して減少の一途をたどり特に稲作面積に至っては、昭和四十五年の二百十六ヘクタールに対し平成二年の九十九ヘクタールと半分以上に激減しました。

そこには、農業のなかでも、特に米作りに展望が持てないための問題と水田農業を支える、人の問題が根底にあります。

## 20年で半減した 農業就業者

次に、農業就業者の年代別推移を見てみましょう。

グラフ3からわかるように、昭和四十五年に五百六十二人だった就業者も、平成二年には二百五十四人とわずか二十年で半減してしまいました。

さらに、その内訳を年代別にみると、年を追うごとに逆ピラミッド

ドになってきているのがわかります。驚くことに平成二年には、全体の七割強が五十歳を超えるに至っています。

普通なら定年を迎えようとする人たちの力で町の農業を支えられているのです。

## 農業を守ることは 町全体の問題

農業の主力が五十から七十歳代で占められ、これらの人が土と農業への愛着で頑張れるあいだは何とかなります。しかし、リタイアする日が近い将来、必ずやって来ます。

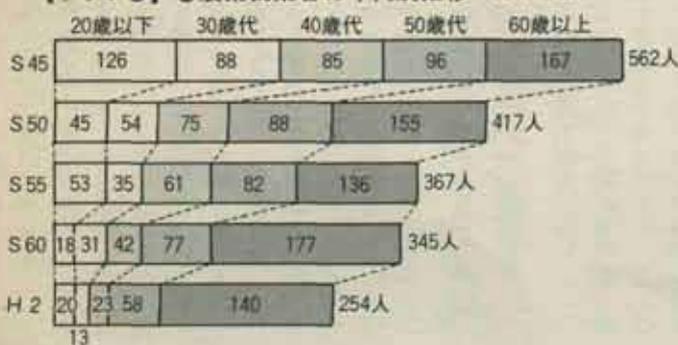
この原因は何といっても新規就業者の激減、言い換えると後継者が確保できないことにあります。これからの農業に明るい見通しが立たない以上、後継者を確保することは非常に困難です。

農業就業者の高齢化が進み、後継者の確保に希望が持てない現在水巻町の農業は年々衰退の道をたどるのは明らかです。特に水田は、私たちの食を確保してくれるだけでなく、自ら持つ貯水能力で豪雨による自然災害から命や財産を守ってくれます。そういう意味でも農業を守ることは、私たちの生活を守ることにつながります。

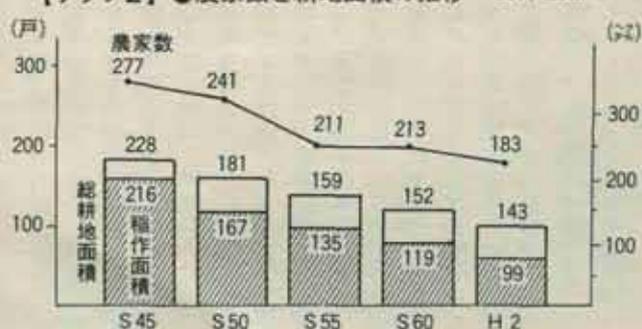
単に農家だけの問題としてではなく、町全体の問題として考えていくべきではないでしょうか。



【グラフ3】 ●農業就業者の年代別推移 資料：農業センサス



【グラフ2】 ●農家数と耕地面積の推移 資料：農業センサス



# これからをどう生きるか。

八方ふさがりの米作り環境がもたらす後継者の激減と投資意欲の減退。いったい水巻の農業の生き残る道はあるのでしょうか。これからどう生きるのか、どう対処するのか、農業関係者に聞いてみました。

## あと10年もすると 専業農家はなくなる

就農者の高齢化が進んでいまも私も六十歳になり、町内専業農家では最後の団塊の世代です。後継者が育たない以上あと十年もすると、もう専業農家は完全にいなくなってしまう。

一般給与所得者の初任給は、十五年前に比べ約二倍になっています。しかし、米価は昭和六十年をピークに下降線をたどり、今では十五年前の価格に戻ってしまいました。肥料や農薬、機械などの物材費は、物価の上昇にともない上がっております。

現状の米作りだけで生計を維持することは到底できません。何とかしなくてはと思い、四年前から早期米コシヒカリを作りはじめました。

うまい米、高く売れる米が早く取れる。これは、生産者にとって一番のメリットです。暖地のコシヒカリは東北・北陸産に比べ味はいくぶん落ちますが、早く市場に出るので、十分太刀打ちできます。早期米は、刈り入れの時期が早く、秋ウンカの被害から逃れることができ、台風などの自然災害を避けられる確率が高くなります。また、私たちのような年配の者にとって労働力の配分がうまくでき

るということは大きな魅力です。それに、機械の効率的な利用ができ、農薬散布も少なくて済みま

## 後継者が安心して生活できる 社会的条件の整備が必要

土地の効率的な利用からみると減反田を団地化して麦作や野菜作などを導入することがあげられますが、リスクや労働力の確保を考えると、正直いってもうこれ以上働けないというのが実情です。

若い後継者がいけば新しい技術の導入や施設に投資して、次の世代が生活できるよう全力を注ぎたい



農地を守る主婦  
豊澤恵子さん(51歳・下二)

## 手伝ってほしいとは言えても 継いでほしいとは言えません

現在、田んぼが24畝ほど有りますが、作っているのは、減反田を除いて16畝ほどです。

農業で生計を立てようとするとならば5畝から10畝作るような規模でないと、職業として成り立ちません。もちろん、大型機械などを入れ、人件費を節約してようやく成り立つ職業です。

宅地造成などで、水巻町の耕地面積は年々減ってきています。

政府の打ち出した三割の減反政策で、町に課せられる減反面積は毎年変わっていません。そのため実質三割以上の減反を強いられるのが現状です。

昔に比べ仕事そのものは、機械化されて楽になりました。しかし米価の引き下げ、農薬代や機械の維持費などの必要経費の上昇で、実質は収入減になってきて非常にやりにくくなりました。

農業を営んでいく者として、田んぼを放置するわけにはいかないし、採算が合わないからといって

やめるわけにもいきません。子供に手伝ってもらっています。いろいろなことを考えると手伝ってほしいとはいえないものの、農業を継いでほしいとはいえないかです。そうなるなら、委託にでも出してやらないといけません。

米を主食とする日本人のひとりとして米の生産を絶やしません。そのためにも農地を守っていく必要があります。

## 仕事をしやすくするために お互いの協力が必要です

これからの農業をよりしやすくするためには、水路形態で米の品種を特定して作るようにしないといけないと思います。農家自身がお互いに考えなければいけない問題ですが、やはり行政の方からの指導も必要です。みんなが共同意識を高めて、お互いに協力しあいがらやると、もっと仕事がしやすくなると思います。

減反対策の一つとして減反田を団地化する方法があります。減反面積を全部一つの地区に集めて管理し、別の作物を作る方法です。また、景観形成を行うための助成制度があり、それを利用する方法もあります。これらの方法は、これから農業を続けるうえで大切な自衛手段です。お互いが協力し合えばきっとやれるはずですよ。

これからは体力の続く限りやっ

いと思います。しかし、現実を考えると何もできません。私自身、これからも元気な限り米作りに精進したいですね。



米づくりにこだわる  
井上 毅さん(60歳・高知)

労働の質の問題ひとつを考えると、農業の将来に期待することは大変に困難なことだと思います。米の自由化反対などといった間に世の中は大きく変わるでしょう。自由化を前提とした農業環境の整備と社会資本の投入を消費者とともに考えるときに来ていると思います。

地域全体としての農業をつぶすわけにはいきません。家業としての後継者ではなくて、農業の持つ多面性から集落としての後継者をどう育てていくかが最大のポイントになってきます。

### 良質米を作ることで 生き残りの絶対条件



遠賀郡農協 営農課長  
石橋光次郎さん

地域全体で取り組む以外に方法はない  
後継者不足が深刻な問題になってきています。

いままでも町外の農家に委託していた米作りが、委託先の高齢化と後継者不足により、行き詰りの傾向にあります。この事態がますます進むと、農業自体の崩壊につながりかねません。

### 米は期待できない。 野菜作りでやりくり

十二年間勤めた農協を今年二月にやめて、家業を継ぎました。

職場では金融関係をしていましたので、農業は全くゼロからの出発でした。父の指導を受けながら暗中模索しています。

今は米を約2.5いと野菜を80、ほど作っています。米作りは野菜作りに比べ経費がかかります。特に機械は用途別に必要になり、新規購入となると、かなりの出費になります。米価の引き下げや米の自由化など、今後米からの収入が期待できない以上、最小限にとど



農業はゼロからの出発  
小川 剛さん(36歳・高知)

関心を持ってください。  
世間の波に逆らって、どうして先の見通しのない農業なんかを選んだのかと、よくいわれます。農業は人間らしい仕事だと、常

めてやってみようつもりです。野菜は、主にキャベツと白菜を作っています。米に期待できないので野菜の収入で何とかやりくりしなくてはなりません。しかし、キャベツなどの野菜は、価格の変動が激しく不安定です。せめて底値でも安定してほしいものです。

今、時代はマッチしているかどうかわかりませんが、自分が今こうしていられるのも、親の生きざまを始終見てきたからではないかと思っています。

家族が円満であってこそ、子供が明るくなり、親も一生懸命になれるのです。家族が人間らしく生きるには、農業が一番です。人間にとって一番大切なものを農業はもっているように思います。

先の見通しははっきりして明るいものではありませんが、農地を農地として守っていくことが、私の義務だと思っています。

農業にもう少し関心をもっていただくことを願います。



## 秋の祭りに ブラスバンド

河守神社の秋祭り

9月28日と29日の2日間、水の神様で知られる河守神社で恒例の秋祭りがありました。

祭りは子供みこしでスタートです。境内に設置された舞台では、にぎやかに奉納演芸大会が始まりました。今年のオープニングは、県の大会で優勝した折尾高校ブラスバンド部によるすばらしい演奏です。山本リングのリバイバルヒットソングなどが演奏され祭りに花を添えました。オープニングの後には三味線や舞踊が繰り広げられ美しく着飾った子供たちの踊りに盛んな拍手が送られます。わた菓子やたい焼きの夜店の前は子供たちでごったがえし、堀川端や境内は夜遅くまでにぎわいました。

6月から始まった家庭教育学級も、9月20日で6回目。今回は、自由工作の版画づくりです。この日参加した12人のお母さんたちは一足早く年賀状を作りました。

「むずかしいですね。子供に文句をいえなくなりました」と、版画は初めてという班長の鶴田瑞恵さん（梅ノ木団地）。

絵の具のつき方や押しの具合で微妙な変化に刷り上がります。

「小学校以来久しぶりに彫刻刀を握りました。手間はかかりますが温かみが伝わります」と、市丸晴子さん（鯉口団地分譲）。

紙をしっかりと湿らせるのがコツ。版画で子供と接することで何かを発見してみても、お母さん。



## 紙を湿らせる のがコツ！

家庭教育学級



## 交通安全の功労者 富田さんに表彰状

交通安全の功労者として、富田吉蜜さん（60歳・高松団地）にこのほど県知事から表彰状が贈られました。富田さんは、昭和35年ごろから交通安全運動の街頭指導などを行い、これまでに折尾交通安全協会の理事や評議員を歴任。長年の献身的で地道な活動が評価され、交通安全運動の功労者として県知事から表彰されました。

「これからは、特に老人と子供たちに安全指導をしていきたいと思います。そしてこの活動には終わりはありませんので、体が動けるうちは頑張ります」と抱負を語る富田さん。

長い間のボランティア活動、お疲れさまです。

# まちの わだい



9月12日、第二保育所で地元の老人を招き、園児の歌や大正ごとの演奏、先生たちの劇などがありました。

## 元気な赤ちゃん



小川奈央ちゃん 小川梨紗ちゃん

平成2年10月2日生まれ

(正日)さんの二女・長女

いつもかわいいしぐさで  
2倍の笑顔で  
みんなを笑わせてくれ  
ます。  
二人ながよく  
元気に育ってね！  
(高松団地一六四一)

掲載を希望する人は、誕生日の前月20日までに  
庶務係へ申し込んでください。(毎月2人まで)

## あのころの感動をもう一度

アニーローリーや庭の千草のメロディーをバックに、あのなつかしいメイポールダンスが20数年の時を越えて、今よみがえります。このダンスは、27年前のダンスの指導者田島繁己（旧姓出口）先生のカムバックをきっかけに、保護者の要望で実現したもの。

9月22日に行われた水巻中学校の運動会で、2・3年の女子243人によって披露。生徒たちは、ボールの先端から延びた紅白の布をゆるやかな曲に合わせ、踊りながら編みあげていきます。

「お母さん、あなたたちの娘が紅白の布を織り、きれいに花を咲かせてみせます。あのころの感動を、もう一度味わってください」というアナウンスの紹介に、お母さんたちはなつかしい少女時代の思い出に浸っていました。



## 静かなブームを呼んでいます

9月26日、吉田グラウンドで30人の選手が参加して、グラウンドゴルフ選手権大会が行われました。

「とにかくおもしろいスポーツです。練習日がまちどおしい」と小川忠義さん（69歳・下二）。

グラウンドゴルフは、樹脂でできた直径約5センチのボールを、木製のスティックで打って転がし、ホールポストの下についた枠の中に入れる競技です。ゴルフに似たルールで8ホールを回り、打数の少なさを競います。

「足の運動に最適です。童心に戻りたい」と、2本のホールインワンを出した松村静子さん（59歳・立屋敷）。

スティック1本とボール1個という手軽さのため、シルバースポーツとして今、静かなブームを呼んでいます。

## 種も仕掛けもありません

9月15日、帆地区の公民館で開かれた敬老会で、地元の子供たちがお年寄りに手品をプレゼントしました。

シルクハットやドレスを着た11人のミニマジシャンたちが、魔法のハンカチや風船割り、消えたタマゴなどたくさんの手品を披露。わずか4日間の特訓で覚えたにもかかわらず、子供たちの演技が冴えわたります。

「とっても楽しかった。準備が大変だったでしょうね」と、笑顔で答える吉村マツコさん（77歳）。

「たくさんの人の前で手品をしたのは初めてです。あがってしまいました」と、瓶つりの手品に挑戦した柴田聖恵ちゃん（帆小5年）。

次々と繰り広げられる子供たちの演技に、会場のお年寄りは盛大な拍手を送りました。



## 心も体もリフレッシュ

毎週火曜日の午後7時30分から、「エアロビクス教室」が町民体育館で開かれています。日ごろのたまったストレスを発散させようと、流行の音楽に合わせて体を動かします。軽快なリズムといつまでも健康で美しくありたいと願っている女性の熱気で、会場もどこか華やいで見えます。

「友達に誘われて参加したけど、やってみると自分の体の硬さにびっくりしました」と、いい汗をかいていた本松千代子さん（おかの台）。「健康のために体を動かすことが大好きです。ほかに週2回、ピーチバレエもやっています」と、とても元気な濱田和子さん（みずほ団地）。

終わった後は、心も体もリフレッシュ。みんな、輝いていました。

こころにちは保健婦です

このコーナーでは、市民のみなさんから「健康」に関するいろいろな原稿を募集しています。今回も前月に引き続き上田博さんからエッセイを寄稿していただきました。

## エッセイ 身近な山歩き



上田 博さん  
(58歳・吉田一)

**私** は信仰を持っていないが、神様とやらに生命のことは預けて、気楽に生きたいとつくづく思う。どうして自分の生命を自

から計る羽目に落ち入ったのか、過食過飲の罰だろうと、納得せざるを得ない。三十歳過ぎから高血圧を指摘され、手綱を締めたり緩めたりして、肥満との闘いを続けている。

私の状態は運動不足が明らかなので、人並みにジョギングを始めた。一緒に走る幼い息子から、お父さん無理せんがいいよと同情される始末だった。腰痛の持病を持つ私には、走るのは逆効果と悟りひたすら歩くことに切り替えた。運動のため歩くのも、一般道路を歩く外はない。道路を歩くのは、車の排気ガスを浴びに行くようなものである。

**元** 来私には、狩猟採集時代の血が色濃く残っているらしい。子供のころから狩猟採集に血が湧いたことを覚えている。

分け入っていたのである。藪の赤に誘われて自然に山に

**身** 近な山や藪を歩くようになって、山国生まれの私の血は、がぜん故郷の山野を歩いた少年時代に帰っていた。排気ガスを逃れるための山歩きは、なんと楽しい自然に触れあう時間となったことだろう。

最初、私の目についたのは木耳であった。身近な林や藪のいたるところに、木耳が生えているではないか。

ラーメンやチャンポンに散らされていて、こりこりと歯ざわりのよい木耳は鉄分を含んだ繊維が多く、成人病に薬効があると言われている。

庭に置く彫材に生ひし木耳の象の耳ほど春雨に伸ぶ  
冬場の木耳採りがこの有様だから、春の山菜の季節は大忙しである。本来の目的である運動不足解消など打ち忘れて、山菜摘みに熱中してしまう。したがって、我が家の来客は、私の山菜料理を食べさせられる羽目になる。御用心と警告しておこう。

(うえた ひろし)

**あ** る日、木耳の生えている枝を持ち帰って、庭に放置しておいた。ところがいつの間にか菌が移って、彫材にしようと積んであった櫛の木は、木耳を栽培している状態になってしまった。

一句  
木々の間に  
ひらけし空や 小鳥宛  
木耳を採集していると、木耳は接骨木の木に好んで生えることを知った。最初のころ、木耳を追っていた私の目は、まず接骨木を捜し求めているのであった。木耳は珍らしい茸で、晴れた日には乾燥して成長を止め、雨天に水分を得ると膨らんで、成育することを知った。



平成4年1月1日から 新しく変わります

# 児童手当

1人目の子どもから支給されます

●現在、児童手当を受けている人は手続きをする必要はありません。

|       | 改正前        | 改正後         |
|-------|------------|-------------|
| ●支給対象 | 第2子以降      | 第1子以降       |
| ●支給期間 | 義務教育就学前    | 3歳未満        |
| ●支給金額 |            |             |
| 第1子   | —          | 5,000円(月額)  |
| 第2子   | 2,500円(月額) | 5,000円(月額)  |
| 第3子以降 | 5,000円(月額) | 10,000円(月額) |

児童手当が平成4年1月1日から次のように変わります



# スポーツ トピックス

## がんばりました。 スポーツ少年団総合競技大会 (9/1)



### 水泳

- リレー男子の部  
〔優勝〕 頃末水泳  
〔準優勝〕 猪熊水泳
- リレー女子の部  
〔優勝〕 杣水泳  
〔準優勝〕 頃末水泳
- 総合の部  
〔優勝〕 頃末水泳  
〔準優勝〕 杣水泳

### バドミントン

- 総合の部  
〔優勝〕 成増潤一郎  
〔準優勝〕 尾方智美

### バレーボール

- 4年生以下の部  
〔優勝〕 頃末女子  
〔準優勝〕 猪熊女子
- 5年生の部  
〔優勝〕 頃末女子  
〔準優勝〕 伊左座
- 6年生の部  
〔優勝〕 頃末女子  
〔準優勝〕 猪熊女子

### 野球

- 〔優勝〕 伊左座ヤンキーズ  
〔準優勝〕 杣ロイヤルズ

### 剣道

- 小学生の部  
〔優勝〕 伊左座剣道A  
〔準優勝〕 杣剣道A
- 中学生の部  
〔優勝〕 杣剣道  
〔準優勝〕 伊左座剣道

## オリーブが快勝

### ビーチボールバレー選手権大会

9月12日、町民体育館で12のチームが参加しビーチボールバレー大会が行われました。

リンクリーグ戦を勝ち抜いた4チームが決勝トーナメントへ出場。熱戦の末、オリーブが優勝の栄冠を勝ち取りました。

優勝 オリーブ・準優勝 イマージュ・三位 ムーミン



### 第1子の認定請求

平成3年1月2日以後に生まれた第一子については、平成4年1月から新たに支給対象になります。認定請求の手続きが必要です。この認定請求の受付は、平成3年11月から行います。

### 児童手当を受給できる人

三歳未満の児童を養育している人で、収入が一定の額未満の場合に受けられます。

平成4年1月から制度が新しくなり、支給対象となる年齢に経過措置が設けられています。

### 請求の方法

児童手当（特別給付）の支給を受けようとする場合は、児童手当認定請求書を役場社会課老人児童係（公務員は勤務先）に提出してください。手当の支給は、請求の翌月分からとなりますので、早めに請求をしないと受給資格があっても受けられる月分の手当が受けられなくなります。

### 児童手当の額

平成4年1月から支給される手当の額は、第一子と第二子は月額五千元、第三子以降は一人につき月額一万円となります。手当は毎年2月・6月・10月に、それぞれの前月分までが支給されます。

### ■現在、児童手当を受けている人は次のようになります■

|                             |              |
|-----------------------------|--------------|
| 昭和60年4月2日～昭和61年12月31日生まれの児童 | 平成3年12月分まで支給 |
| 昭和62年1月1日～昭和62年12月31日生まれの児童 | 5歳の誕生日分まで支給  |
| 昭和63年1月1日～昭和63年12月31日生まれの児童 | 平成4年12月分まで支給 |
| 平成元年1月1日～平成元年12月31日生まれの児童   | 4歳の誕生日分まで支給  |
| 平成2年1月1日～平成2年12月31日生まれの児童   | 平成5年12月分まで支給 |
| 平成3年1月1日以後に生まれた児童           | 3歳の誕生日分まで支給  |

支給期間については、次のような経過措置があります

### 第1子

平成3年1月2日以後に生まれた児童

詳しくは、役場社会課老人児童係でお尋ねください。

# くらしの情報

問い合わせは役場まで  
▲201-4321

## ご協力ください。 高齢者の実態調査

役場社会課老人児童係

県では、お年寄りとその介護をしている人を対象に、実態調査をおこなっています。  
調査は、厚生大臣から委嘱を受けている民生委員が調査員となっており、日常生活や健康状態、介護の状況などを聞きに伺います。これからの高齢者対策のための大切な

## あなたの出番を 待っています。



青年海外協力隊員募集  
締め切りは11月30日

## 募集 説明会

と き 10月17日、11月12日  
いずれも午後6時30分から  
ところ 北九州国際会議場  
(JR小倉駅新幹線口)  
問い合わせ 国際協力事業団  
九州支部 ☎(092)451-3380

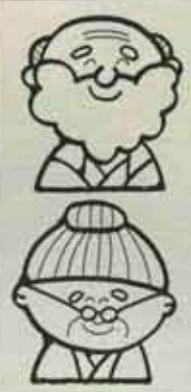
## 見て学ぶ 社会教育推進講座

### 地域活動実例編

子ども育成会・青年サークル活動を活発に実践している団体の発表会です。

| 日 | とき                     | 内 容   |
|---|------------------------|---|
| 1 | 11/12<br>(火)<br>PM7:00 | ●映画 心を育てる野外活動<br>●子ども会育成会活動の事例・質疑 (中岡市)     |
| 2 | 11/19<br>(火)<br>PM7:00 | ●映画 集会は楽しく<br>●私たちの青年サークルを興すまで (遠賀町)        |
| 3 | 11/26<br>(火)<br>PM7:00 | ●映画 ふるさと道しるべ<br>●只今、活動まっさい中！<br>若宮青年会 (若宮町) |

●会 場：中央公民館2F視聴覚室ほか  
●申し込み：11月1日までに中央公民館へ



資料となりますので、協力をお願いします。  
●対 象 4月1日現在で満六十五歳以上の入  
●期 間 10月1日～31日  
●調 査 員 民生・児童委員  
●問 合 せ 社会課老人児童係

## 夢とやる気のある人集合！ 芦屋町医療職員を募集中

芦屋町

芦屋町では、看護婦と作業療法士を募集しています。  
●職種と予定人員  
看護婦20人 作業療法士1人  
●受験資格  
看護婦 昭和40年4月2日以降に生まれ、看護婦免許を持っているか、平成4年5月までに取得見込みの人  
作業療法士 昭和38年4月2日以降に生まれ、作業療法士の免許を持っているか、平成4年5月までに取得見込みの人  
※どちらも国籍は問いません。

●試験 11月5日(火)芦屋町役場  
●申し込み・問い合わせ 10月31日までに芦屋町役場総務課人事係(芦屋町幸町2-20 ☎2223局0881番)へ。申請書は、総務課で準備しています。

## 夢とロマンが 大空に舞う

スカイ・レジャー・ジャパン'91

6とき  
11月2日▶4日  
11:00~16:30 (2日)  
9:00~16:30 (3・4日)



6ところ  
若松区  
響灘埋立地  
特設会場

6内容  
熱気球などのデモフライト・エアショー・体験フライト・遊覧フライトなど

6問い合わせ  
スカイレジャー・ジャパン'91実行委員会  
☎582-3876

## あなたのファイトを待っています。 浄化槽管理者と運転手募集

(有) 大洋社

●資格 50歳までの男性  
●職種と人員 運転手・浄化槽管理者 数人  
●受付期間 10月25日まで  
●問い合わせ (有) 大洋社(遠賀町鬼津2027-1) ☎293局3331番

## 美しく老いるために。 国民年金生きがい講座

県国民年金協会

年金のしくみや人生プランを、わかりやすく解説する国民年金生きがい講座に参加しませんか。  
年金講座、教養講座、健康講座のほか社交ダンスやカラオケなどの趣味の講座もあります。夕食での懇親会も用意され、楽しい出合いが待っています。  
●受講料 いずれも八千円(一泊三食、懇親会込み)

## いい汗かこうよ!

### 郡身体障害者体育大会



10/20(日)AM10:00~岡垣町山田小学校

| 日程          | 会 場  |
|-------------|--|
| 11/5<br>6   | グリーンピア八女<br>(黒木町)<br>☎(0943)-42-2400       |
| 11/14<br>15 | 福岡厚生年金スポーツ<br>センター(福岡町)<br>☎(0940)-42-2105 |
| 11/20<br>21 | 国民年金保養センター<br>太宰府(太宰府市)<br>☎(092)-925-5801 |

●定 員 いずれも七十五人  
●申し込み・問い合わせ  
福岡県国民年金協会(〒812福岡市博多区東公園7-7 県庁国民年金課内) ☎(092)622局6398番



# 人 の みずき みま

## 人の出会いは不思議です。 その出会いを大切にしたい。

言葉を通じて国際交流

長田栄子さん（頃末・40歳）

●日本語サークル「昴」を結成し、政治学級で交流会。

### 自分が受けた感動を 外国の人に伝えたい

「外国語で外国の人と意思の疎通ができることは、すばらしいこととです」と、言葉を通じて国際交流に熱意を燃やす長田栄子さん。三年前、英語で紹介されるソウルオリンピックのテレビ中継を、



「国際交流の場にはどうしても外国語が必要です」と、日本語はもちろん外国語会話の勉強にいとまがない栄子さん。

通訳なしに直接聞いてみたいと思  
い、英会話を習い始めました。  
英会話の先生は、ピーターさん  
というカナダの人で、外国の人と  
の最初の出会いでした。

「日本語をあまりしゃべれない  
先生でしたが、根気よく教えてく  
れました。そういう熱心で温かい  
人柄に感動しました」と、出会い  
を語ります。自分が受けた感動

### 料理をとおして 台所で国際交流

を、今度は逆に自分が外国の人に  
日本語を教えることで、外国の人  
に感動を与えたい、という思いで  
日本語教師の勉強を始めました。

ワープロ講習会で知り合った友  
だち数人と「昴」という名の日本  
語を勉強するサークルを

結成。中央公民館の一室  
で活動していたところ、  
町の選挙管理委員会から  
政治学級への参加要請が  
ありました。政治学級と  
いうのは、ゴミ処理や河  
川の汚染などの環境問題  
を学習するものだと聞い  
ていたので、日本語の勉  
強と政治学級とどう結び  
付くのか不思議に思っ  
ていました。でも、英会話  
も日本語も行き着くところ  
は国際交流。結局、国  
際交流は、政治という点



中国の王様さんから、上海の餃子づくりの手ほどきを受ける政治学級のメンバー

で結び付くというので、グルーブ  
で参加してみることにしました。  
政治学級に参加しているのは、  
ほとんどが主婦。台所という共通  
点から、第一回目は料理を通じて  
の国際交流を試みました。日本語  
の勉強のために上海から来日して  
いる就学生、王様さん（水巻町在  
住）を講師に招いて、上海の餃子  
作りの講習会を行いました。

「いろいろな国の人と接する機  
会を、水巻町で私たちのサークル  
が企画しようというムードになっ  
てきています。これからは、その  
ムードを大切に、最初の目的で  
ある日本語の勉強もやっていきたく  
いと思っています。人が出会うと  
いうことは不思議だし、せっかくな  
ら出会いのことを大切にしたい」と、  
これからの目標を語ります。  
九月五日に行われた北九州教育  
事務所主催の「女性リーダーのつ  
どい」で、今までの活動を報告し  
た栄子さん。  
国際交流に向けて今後の活躍が  
期待されます。



■「エアロビクス教室」の取材に  
行くと、会場では女性ばかり40人  
が踊っていました。その光景に圧  
倒されたせいか、カメラの操作ミ  
スなどで足を運んだ回数、計3回。  
さすがに3回目ともなると、ひと  
りポツンとカメラを持って立っ  
ている姿が恥ずかしいやら、情けな  
いやら。▼取材ひとつ、写真一枚  
でこの有り様ですから、記事をま  
とめるに至ってはご想像におまか  
せします。  
（蔵元）

■今回の特集は、多古米で有名な  
千葉県多古町の広報を参考に、わ  
が町の農業を検証してみました。  
後継者不足は全国で深刻化し、こ  
のまま進めば十年もすると農業に  
破綻をきたすといわれています。  
これは農家だけの問題ではなく私  
たち自身の問題です。▼水巻中学  
校正門前の桜のアーチが、県道の  
拡幅工事のため切り倒されようと  
しています。この中を何人の思い  
出が通り抜けて行ったことか。移  
植は間に合わないらしい。なぜも  
っと早くに対処できなかったのだ  
ろうか。全国で緑化運動が行われ  
ているなか残念です。  
（嶋田）

この広報は  
再生紙を  
使用しています。

